



台湾のハイテク産業を支える「サイエンスパーク」



肥後銀行
台北駐在員事務所 所長
本島 知明

台湾は半導体などのハイテク産業分野で目覚ましい発展を遂げていることは周知の事実ですが、他国が真似できない凄まじい発展を実現した要因の一つに「産業クラスター」が挙げられます。

クラスターとは、本来「群れ・集合体」を意味する言葉ですが、台湾では「サイエンスパーク」が大きく関わっています。今回は台湾のサイエンスパークについて注目します。

1. サイエンスパークとは？

TSMCが本社を構える新竹サイエンスパーク（図表1）、台中市の中部サイエンスパーク、台南市の南部サイエンスパークの3カ所で開催されます（図表2）。入居する企業は半導体をはじめ、オプトエレクトロニクス、精密機器、バイオテクノロジー、医療機器など多岐に渡ります。また、驚くべきはその規模で、3カ所合計の総開発面積は約4,155ha（2024年7月時点、開発中除く）、入居企業は1,133社（2024年7月時点）、そこで働く従業員は約32万人（2024年9月時点）に上ります。

図表1 新竹サイエンスパーク

図表2 台湾のサイエンスパーク

以降は会員専用ページにて公開しております。
 ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
 アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

名称	面積	入居企業数	従業員数
新竹サイエンスパーク	1,376ha	422社	176,773人
中部サイエンスパーク	1,610ha	272社	90,881人
南部サイエンスパーク	1,169ha	239社	25,881人

出所：新竹サイエンスパーク管理局HP 作成

（入力は数分で終わります）

[会員の方ははこちらから](#)